

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|--|--------------------------|----------------|--------------|
| こころとからだのしくみⅡ Physical and Emotional Mechanisms II | | 1年 | 前期1 / 2 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (介護福祉士養成課程 必修) | 特になし |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| こころとからだのしくみⅠ・Ⅲ、介護福祉士資格取得に必要な科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 和田 晴美 | 福祉棟2F | 月・火・水・木の9時から16時(授業時間を除く) | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 人間はどのようなメカニズムで、食事や排泄を行い、関係する器官の機能はどのようなしくみになっているのか。そして、こころとからだはどのように関係するのかといった、介護の基礎知識となるこころとからだのしくみを学び、介護に関連付けて理解できるようにする授業である。食事や排泄は人間の基本的欲求であり、生活の基盤となるものである。また、人の死は避けて通れないものであり、介護福祉士は終末期の介護への対応も求められている。人間が死に向かう過程でおこる、こころとからだの変化についての理解を深めることを目指す。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①食事および排泄に関するからだの構造と機能を、説明できるようにする。 ②正常な食事・排泄の状態と異常な状態を、列挙できるようにする。 ③食事と排泄がこころに与える影響を説明できるようにする。 ④日本人の死の概況と、現代の死の特徴を説明できるようにする。 ⑤終末期に起こるからだの変化を、列挙できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 講義やグループディスカッションを通して、食事および排泄の意義や重要性、支援する際に関連するからだの構造や機能、さらには死にゆく人のこころとからだについて学ぶ。 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①食事および排泄に関わる器官の名称と主な機能を明確にし、心身の機能低下が食事や排泄におよぼす影響を説明することができる。 ②人が避けて通れない死を身近なものとして認識し、死にゆく人のこころとからだの変化について説明することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス(シラバスにそって授業概要、授業の目標と学習の成果、評価方法等の説明) 食事の意義 | | | |
| 第2回目 | 食事に関連したこころのしくみ 食べることに関連したからだのしくみ | | | |
| 第3回目 | 消化器の解剖と生理① 口腔、食道、胃の解剖と機能 視聴覚教材「驚異の小宇宙 人体 消化吸収の妙 ～胃・腸～」の視聴 | | | |
| 第4回目 | 消化器の解剖と生理② 小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の解剖と機能 | | | |
| 第5回目 | 食事内容と栄養 栄養素、エネルギーの摂取基準 | | | |
| 第6回目 | 食事に関する機能低下の原因と影響 加齢、疾患、障害 | | | |

| | | |
|---|--|--|
| 第7回目 | さまざまな食事形態と代償的な栄養摂取法 食事に関する多職種連携 | |
| 第8回目 | 排泄に関連したところのしくみ 泌尿器の解剖と機能 | |
| 第9回目 | 排泄のしくみ 正常な尿と排尿状態、尿と排尿の異常、正常な便と排便状態、便と排便の異常 | |
| 第10回目 | 排泄に関する機能低下の原因と影響 排尿・排便の障害、さまざまな排泄形態、医療職との連携 | |
| 第11回目 | 尊厳にかかわる排泄の介護 【グループディスカッション・発表】 ＜課題：食事・排泄日誌 提出は第13回＞ | |
| 第12回目 | 死にゆく人のところとからだのしくみ 日本人の死亡の状況（統計） 死の定義 | |
| 第13回目 | 現代の死の特徴と日本人の死生観 死に対するところの変化 死にゆく人のからだの変化① | |
| 第14回目 | 死にゆく人のからだの変化② | |
| 第15回目 | 視聴覚教材「いのちに寄りそう-お坊さんのいる病院-」の視聴 ＜レポート課題 授業内に提出＞ 授業のまとめと試験対策 | |
| 事前・事後学習 | 授業で不明であったことは、図書館などを利用して次回授業までに調べておくこと。わからない時には担当教員に質問すること。 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 20% | 以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。 |
| レポート | 10% | 「いのちに寄りそう-お坊さんのいる病院-」を鑑賞し、①生活する人の最後の日々を見てどのように感じたか②ビハラーで行われている終末期ケアをどのように思うか、何を感じたか についてのレポートを課題とする。 |
| 調査報告書 | 10% | 「食事・排泄日誌」を3日間記載する。評価基準Sは、1日毎の食事時間と内容、排泄時間と性状、気付きを的確に記載している。さらに3日間を通しての学びでは、食事と排泄の関係性に気づき明確に記載できている。 |
| 小テスト | | |
| 試験 | 60% | 授業の振り返り、知識習得の確認のために試験を行う。問題は文章の正誤を判断するものや、穴埋め問題、言葉の意味を説明する問題等。 |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| ①最新・介護福祉士養成講座 第11巻「ところとからだのしくみ」中央法規出版 ②「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版 ＜ところとからだのしくみ Iと同じ＞ | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| ●実務経験（職種：看護師、職歴：通算10年） 授業には積極的に参加することを望む。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。この授業は前期のクォーター科目である。週2回の授業となるので、注意すること。 | | |